

## 【教職の魅力向上に関する取組】 国立大学法人 愛知教育大学

## 大学出版会を活用した地域参画型の「教職の魅力」発信プラットフォームの構築

## 調査の概要

## ◆課題認識

- ・なぜ、近年、公立学校の教員採用選考試験の競争倍率は、低下傾向にあるのか。
- ・競争倍率の低下は、教職の価値や魅力に対する見方の変化と関係があるのか。
- ・ステークホルダーが抱く教職に対するイメージの実際はどのようなもので、それに対して、教育関係者はどのような「教職の魅力」を発信していくべきか。
- ・地域の教育の質を高めるための教職の魅力向上策として、教員養成大学は何をすべきか。

## ◆調査研究の目的

- ・多様な立場における教職の理解を探り、「教職の魅力向上」に向けた課題を明らかにする。
- ・地域のステークホルダーと大学が一体となって教職の魅力を問い直し、その声を発信する仕組みを構築する。

## ◆調査研究の方法

- ・全国規模のオンラインアンケート調査を実施し、地域フォーラムと公開シンポジウムを開催する。
- ・叢書シリーズ『教職の魅力共創』を立ち上げる。

## 取組のポイント・成果

## ◆取組のポイント

- ①魅力を伝えるだけでなく、共に創る  
これまで教育関係者による一方的な発信だった教職の魅力向社会と共に魅力を創る方向へと変化
- ②魅力は、多面的で可変的  
これまでニュース報道による一面的な見方だった教職の現状を調査し、多面的な見方へと変化
- ③教員養成機関は、魅力共創のファシリテーター  
これまで教員を養成するだけの役割だった教育大学が、教職の魅力共創のファシリテーターへと変化



## ◆成果

- ・教職の魅力に関するアンケート調査の結果、教職が「創造的で発展的な仕事」であるというイメージは、教職に対して魅力を感じているかどうかによって評価が大きく分かれる項目であることが分かった。また、一般の人々と学校教員とでは、教職のイメージにおいて大きな差が見られたのは、「創造的で発展的な仕事」と「仲間と協力し合える仕事」であり、学校教員は教職のこうした側面についてとても肯定的に捉えていることが分かった。
- ・シンポジウム参加者のアンケートでは、「教育関係者だけに留まらず、教職の魅力を向上させていくことが、今後の日本をよりよくしていく上で、とても大きな意味を持つということを様々な分野で活躍されている方々と共有していくことが重要になるのではないか」という意見が寄せられた。シンポジウムを通して、教職の魅力を社会全体で共創することの意味について考える機会を参加者に提供することができた。

## 今後の課題

## ◆「国内外のステークホルダーを巻き込んだ教職の魅力共創」

- ・大学出版会の活用による教職の魅力の向上
- ・叢書シリーズの刊行により、教職の魅力共創を継続化
- ・教職の魅力インタビュー動画の英語字幕による国際的な発信の強化
- ・海外協定校と連携し、教職の魅力共創をテーマにした国際シンポジウムの開催